



つなぐ。 ツクル。

2022年9月期本決算 決算補足説明資料

2022年11月

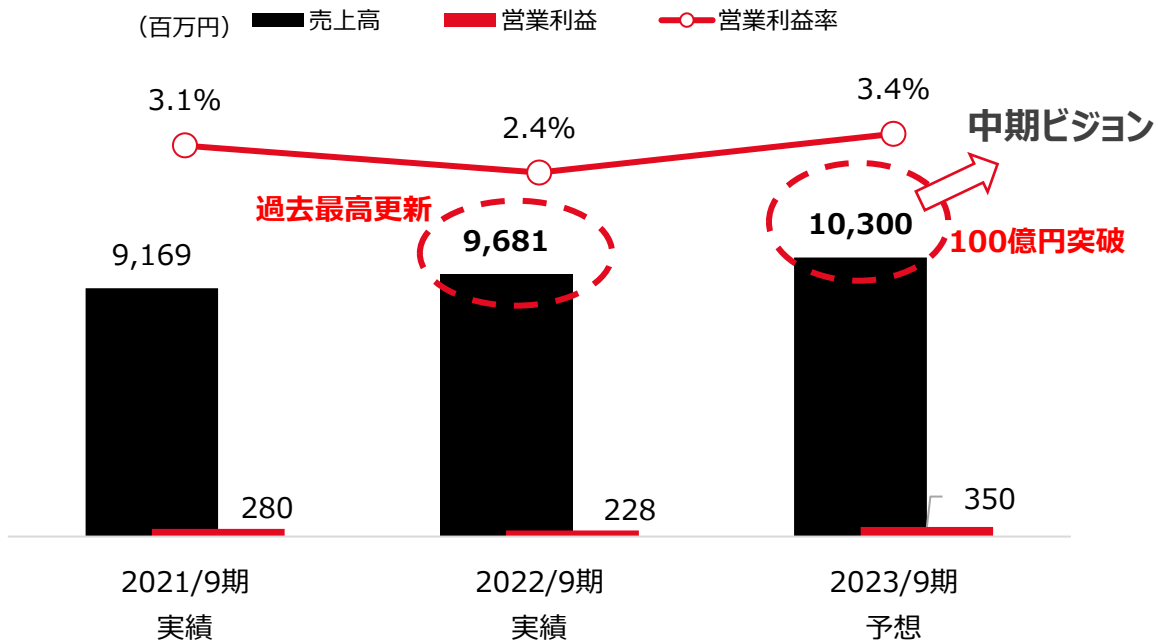
極東産機株式会社（6233 東証スタンダード）

KYOKUTO

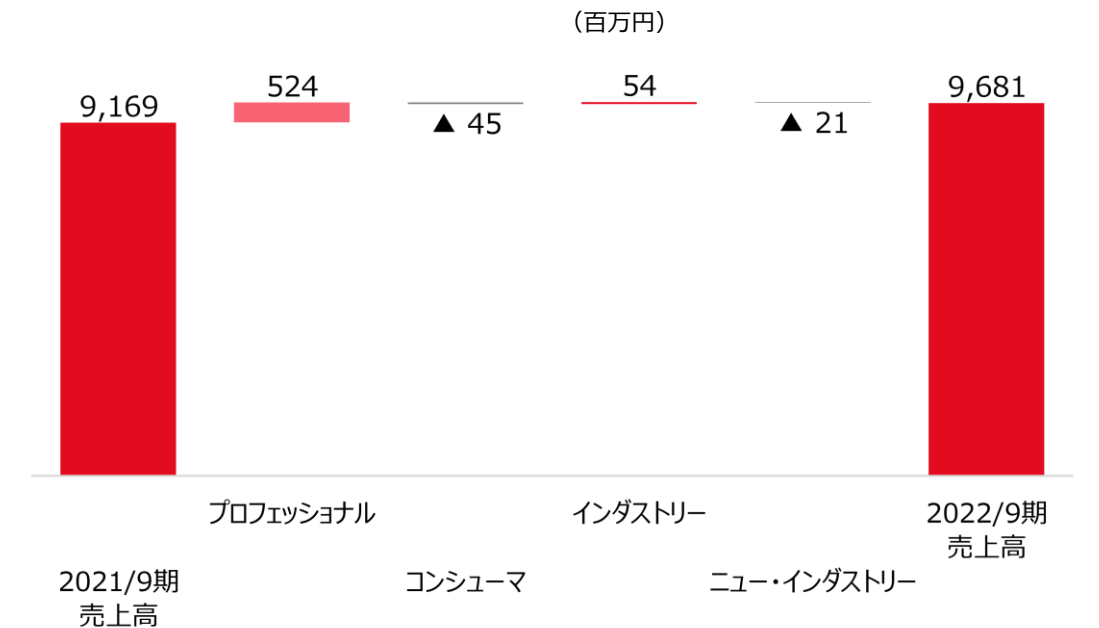
©KYOKUTO SANKI CO., LTD. all rights reserved

- 2022/9期は前期比増収減益。オンラインによる「新しい営業方式」が奏功したプロフェッショナルセグメントの牽引により、売上高は過去最高を更新。一方、減益要因は積極的な成長投資等に起因する償却増による
- 2023/9期は当面の売上目標100億円を突破し、前期比増収増益の見通し
- 中長期的な業績拡大局面入りを確認する中、5年後の80周年（2028年）を念頭に、中期ビジョンを策定中。当社事業を再定義するとともに、リブランディングを図る

通期



売上高増減 セグメント内訳





2022/9期本決算概要

2022年9月期決算の概要

- 売上高は前期比5.1億円、5.6%増の97億円、営業利益は0.5億円、18.5%減の2.3億円
- セグメント別にはプロフェッショナルが好調に推移した一方、コンシューマ、ニュー・インダストリーの苦戦が継続
- 従来見通しとの比較では、若干の未達とはなったものの、ほぼ想定通りの着地に

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期		前期比		予想比 差異
			業績予想 (2021/11/15)	実績	増減額	増減率	
売上高	8,006	9,169	9,765	9,681	+512	+5.6%	▲83
プロフェッショナル	6,385	6,942	7,075	7,466	+524	+7.5%	+391
コンシューマ	930	786	940	741	▲45	▲5.7%	▲198
インダストリー	691	923	1,100	978	+54	+5.9%	▲121
ニュー・インダストリー	-	517	650	495	▲21	▲4.1%	▲154
営業利益	120	280	260	228	▲51	▲18.5%	▲31
プロフェッショナル	78	259	163	186	▲73	▲28.3%	+23
コンシューマ	35	▲16	39	▲12	+4	赤字縮小	▲51
インダストリー	6	49	65	80	+30	+62.4%	+15
ニュー・インダストリー	-	▲12	▲7	▲25	▲13	赤字拡大	▲18
経常利益	81	273	215	194	▲78	▲28.8%	▲20
親会社株主帰属当期純利益	67	189	140	143	▲46	▲24.3%	+3
営業利益率	1.5%	3.1%	2.7%	2.4%		▲0.7pp	▲0.3pp
経常利益率	1.0%	3.0%	2.2%	2.0%		▲1.0pp	▲0.2pp

四半期別業績動向

- 4Qのみで見れば、対3Q、対前4Qともに全社ベースで増収減益。四半期ベースでは上場以降で最高水準の売上を達成
- セグメント別では、プロフェッショナルの売上が四半期ベースで過去最高を更新。調整が続いていたインダストリーも営業黒字基調が鮮明に。一方、コンシューマとニュー・インダストリーは四半期ベースで営業赤字を計上

0.6% (百万円) (2021/9期より連結決算)	2021/9期				2022/9期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,065	2,609	2,286	2,208	2,233	2,453	2,352	2,643
プロフェッショナル	1,684	1,816	1,707	1,733	1,739	1,910	1,773	2,043
コンシューマ	211	177	176	220	196	162	197	184
インダストリー	109	317	320	176	141	267	279	290
ニュー・インダストリー	59	298	81	77	155	112	102	124
営業利益	12	166	31	69	43	120	35	28
プロフェッショナル	48	98	38	74	48	104	22	10
コンシューマ	▲3	▲6	▲10	2	▲0	▲5	0	▲5
インダストリー	▲15	54	18	▲7	▲5	24	29	32
ニュー・インダストリー	▲16	19	▲15	0	1	▲2	▲16	▲8
経常利益	22	181	24	45	30	119	26	17
当期純利益	9	142	6	30	14	83	15	30
営業利益率	0.6%	6.4%	1.4%	3.2%	1.9%	4.9%	1.5%	1.1%
経常利益率	1.1%	6.9%	1.1%	2.1%	1.4%	4.9%	1.1%	0.7%

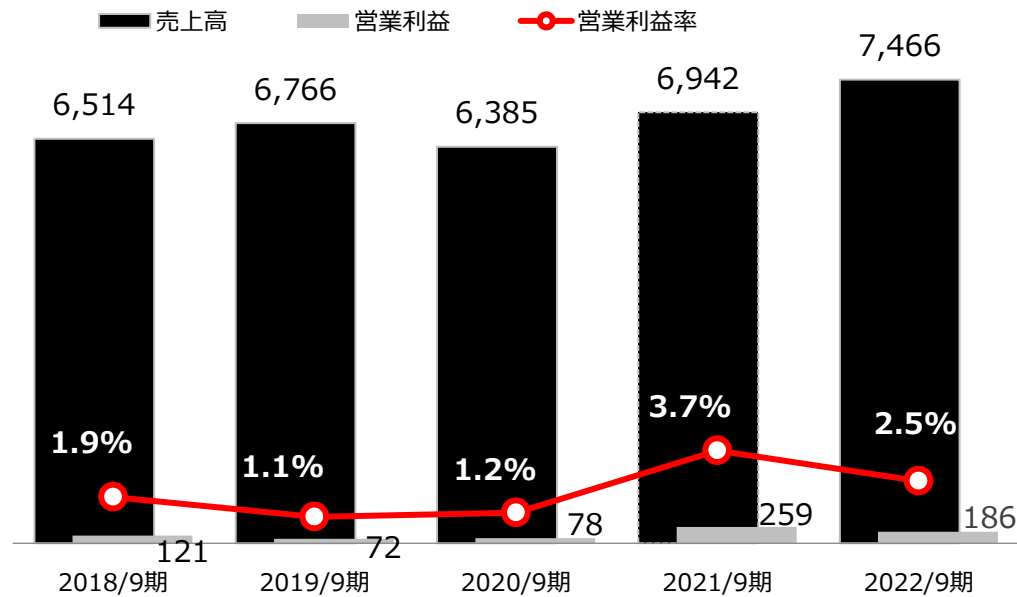
セグメント別事業の状況 ①プロフェッショナル

- 新しい営業方式が定着。インテリア事業は値上げ前の駆け込み需要も影響。畳事業の売上は業界トップの地位を確立
- ただし、損益的には新カタログ発刊やクラウドサービスGoolipの償却負担増等に伴う費用増がコストアップ要因に

プロフェッショナルセグメント業績推移

(百万円)

売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期	22/9期
インテリア	5,578	5,771	5,343	5,829	6,245
畳	907	983	1,002	1,101	1,206



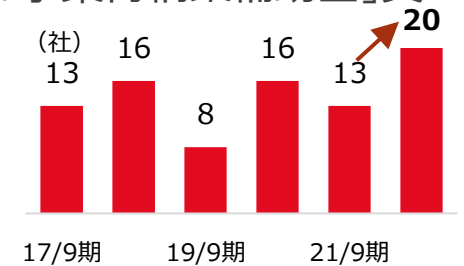
売上高 前期比 +7.5% 予想比 +3.9億円
 営業利益 ▲28.3% +0.2億円

インテリア事業

- 「新しい営業方式」が奏功
- 特に4Qはカタログ商品値上げ前の旧価格での販売増も重なり、好調に推移

畳事業

- 「ものづくり補助金」に加えて、「事業再構築補助金」交付が追い風に
- 当事業も「リモート営業」を展開。新規顧客増*は直近最高の20社に



*他社機から当社コンピュータ式畳製造システムへの乗り換え件数

セグメント別事業の状況 ②コンシューマ

- 2期連続の営業赤字を計上。売上も3期連続で減少。新規事業の立ち上げが概して遅れ気味なうえ、ソーラー・エネルギー事業は制度改正による案件激減が影響
- 損益的には売上低迷に加え、円安によるコスト上昇や償却負担増が圧迫要因に

コンシューマセグメント業績推移

(百万円)	売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期	22/9期
	コンシューマ	570	675	524	574	574
	ソーラー・エネルギー	313	342	351	158	111
	売電	54	52	53	53	55

売上高 前期比 ▲5.7% 予想比▲1.9億円
 営業利益 赤字縮小 ▲0.5億円

コンシューマ

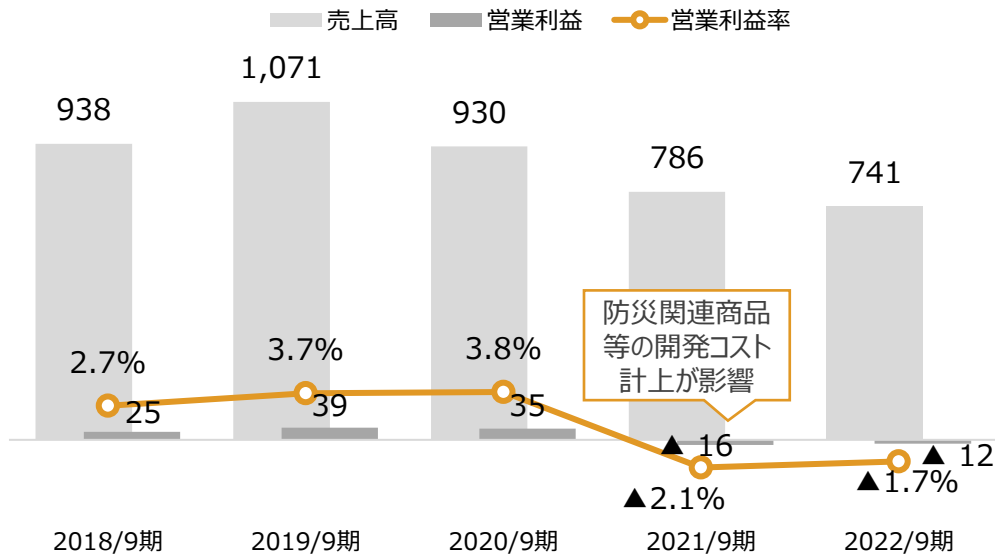
- 新サービスの立ち上げに遅れ
- 円安によるコスト上昇やシステム開発負担も重石に

ソーラー・エネルギー

- 制度改正による案件激減や機材の納期遅延が影響



中期ビジョンにおいて、事業強化策を検討中



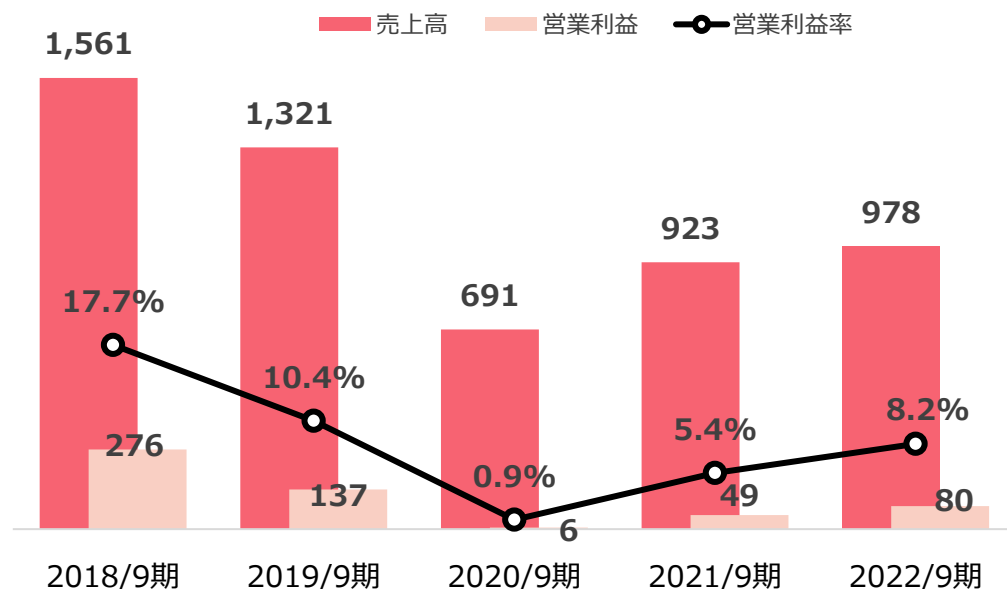
セグメント別事業の状況 ③インダストリー

- 需要は回復基調で推移。特に、主力の産業機器における期末受注残は前期末比4倍に急拡大
- 2022年4月の新工場竣工は需要拡大のタイミングとマッチ。今後は新工場の貢献に期待
- ただし、電子材料など部材仕入納期で遅延も発生。製品出荷スケジュールへの影響も一部で発生

インダストリーセグメント業績推移

(百万円)	売上内訳	18/9期	19/9期	20/9期	21/9期	22/9期
	産業機器	1,131	1,049	471	704	676
	食品機器	429	272	219	219	301

売上高	前期比 +5.7%	予想比▲1.2億円
営業利益	+62.4%	+0.1億円



産業機器事業

- 引き合い件数及び受注額が大幅増。期末受注残は前期比4倍強
- 特に、国内生産回帰やEV化進展に伴い、二次電池製造装置のリピート受注が増加

食品機器事業

- コロナ禍の不振を脱却。引き合い、受注ともに回復
- 特に、海外向けが好調

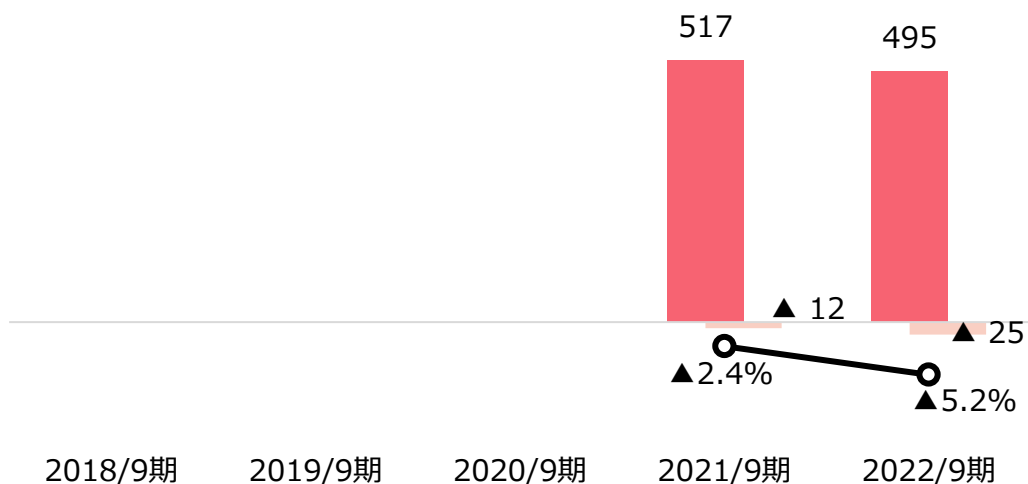
セグメント別事業の状況 ④ニュー・インダストリー

- 得意先の自動車業界がCOVID-19の影響継続により、減収減益。新市場開拓を模索も、営業赤字が継続
- 当社コア技術とのシナジー効果発現にも時間を要している状況。事業強化に向けてテコ入れ急ぐ

インダストリーセグメント業績推移

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



売上高 前期比 ▲4.1% 予想比▲1.5億円
営業利益 赤字拡大 ▲0.1億円

課題と対応状況

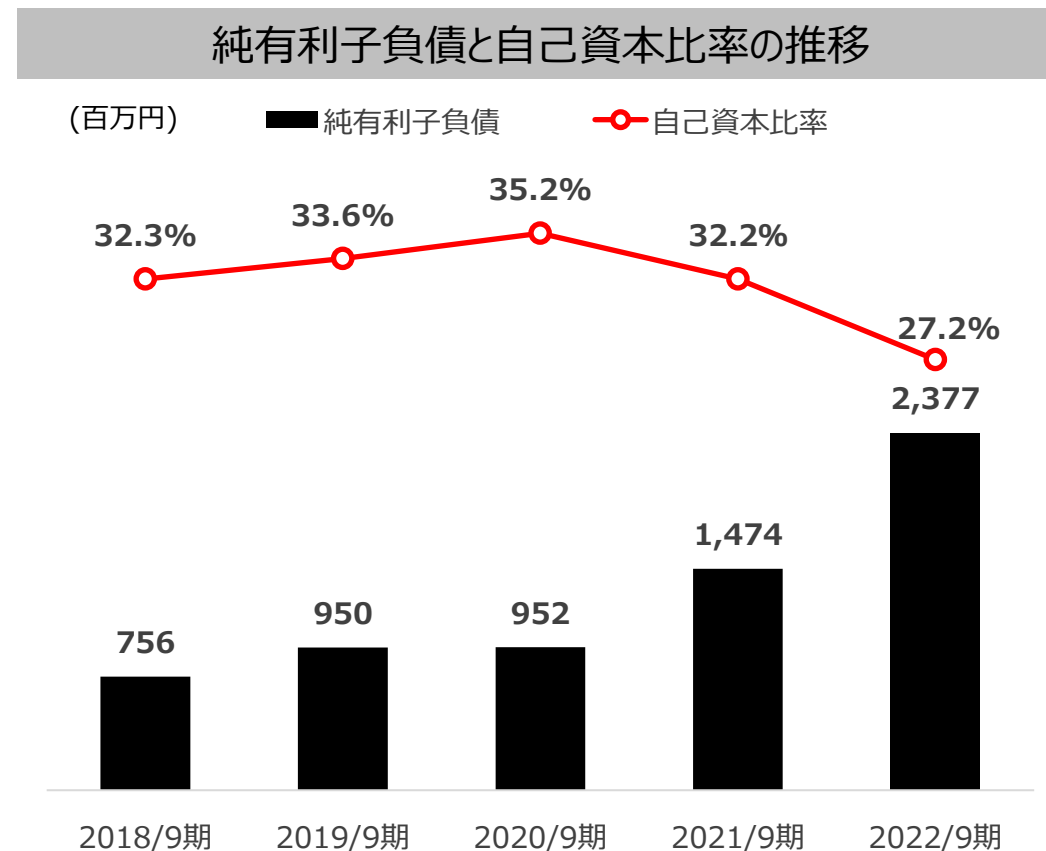
- 自動車生産は回復基調ながら、設備投資拡大には未だ至らず。投資拡大には要時間
- 住宅関連産業等に幅広い応用が可能な技術を導入。自動車に続く新市場の開拓模索を開始
- ROSECCのロボット技術と当社コア技術とのシナジー効果発揮に向けて、各種取り組み強化を検討中

中期ビジョンにおいて、事業強化策を検討中

バランスシート状況

- 積極的な成長投資の断行により、有利子負債は2期連続で増加。事業規模にリンクする債権債務も膨らみ、総資産規模は前期末比2割程度拡大の100億円超に
- 期末の自己資本比率は27.2%。30%割れは2018/9期以来。積極投資推進の中、一時的な財務負担増を甘受

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期
流動資産	5,048	5,271	5,943
現預金	1,429	1,561	1,497
売掛債権	2,627	2,553	2,924
棚卸資産	953	1,107	1,341
固定資産	2,543	3,353	4,487
総資産	7,591	8,625	10,430
負債	4,918	5,844	7,589
買入債務	1,635	1,774	2,262
有利子負債	2,381	3,036	3,874
純資産	2,673	2,780	2,841
負債及び純資産	7,591	8,625	10,430

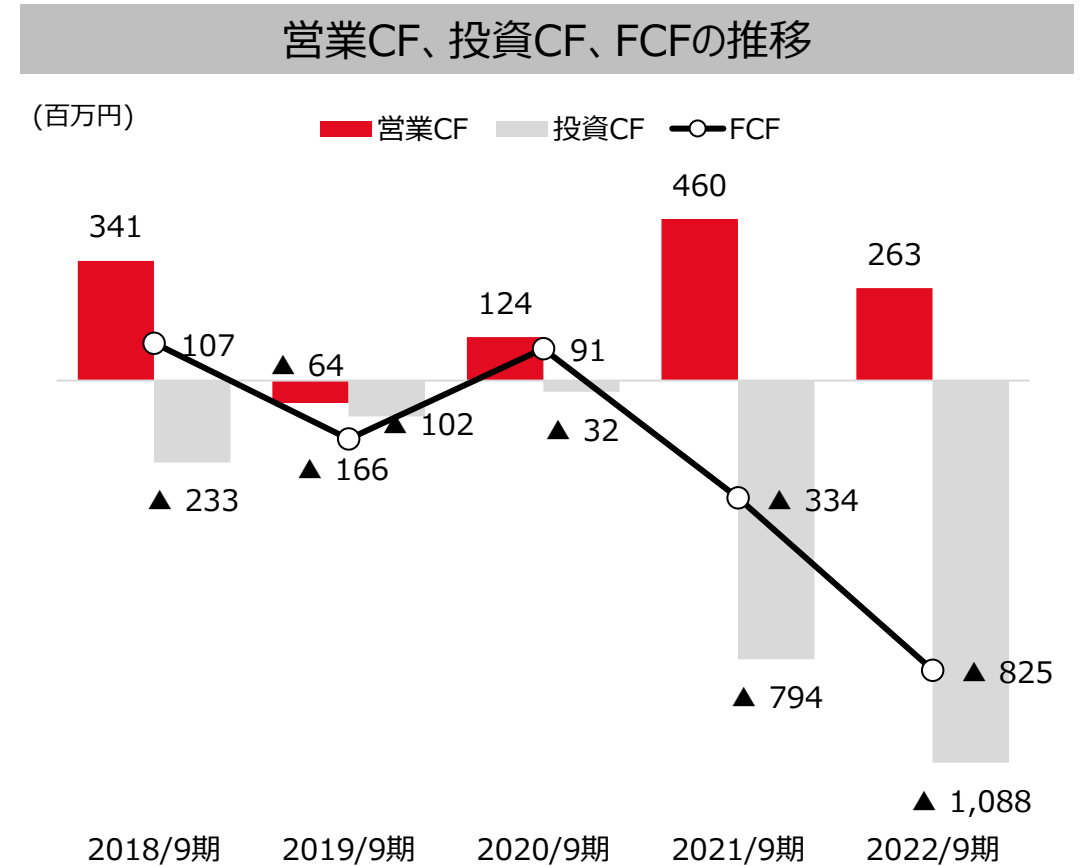


キャッシュフローの状況

- 神岡工場竣工により投資関連のキャッシュアウトが増加。営業CFの縮小も加わり、FCFのマイナス幅が拡大
- ただし、これは中長期的な成長のためには欠かせないもの。現在はCFの充実よりも先行投資を優先

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期
営業CF	124	460	263
投資CF	▲32	▲794	▲1,088
固定資産取得	▲60	▲585	▲1,082
子会社株式取得	—	▲214	—
FCF	91	▲334	▲825
財務CF	▲70	442	757
借入金の返済等	▲202	▲319	▲684
長期借入収入	—	870	1,533
株式発行収入	—	—	—
配当金支払額	▲53	▲53	▲53

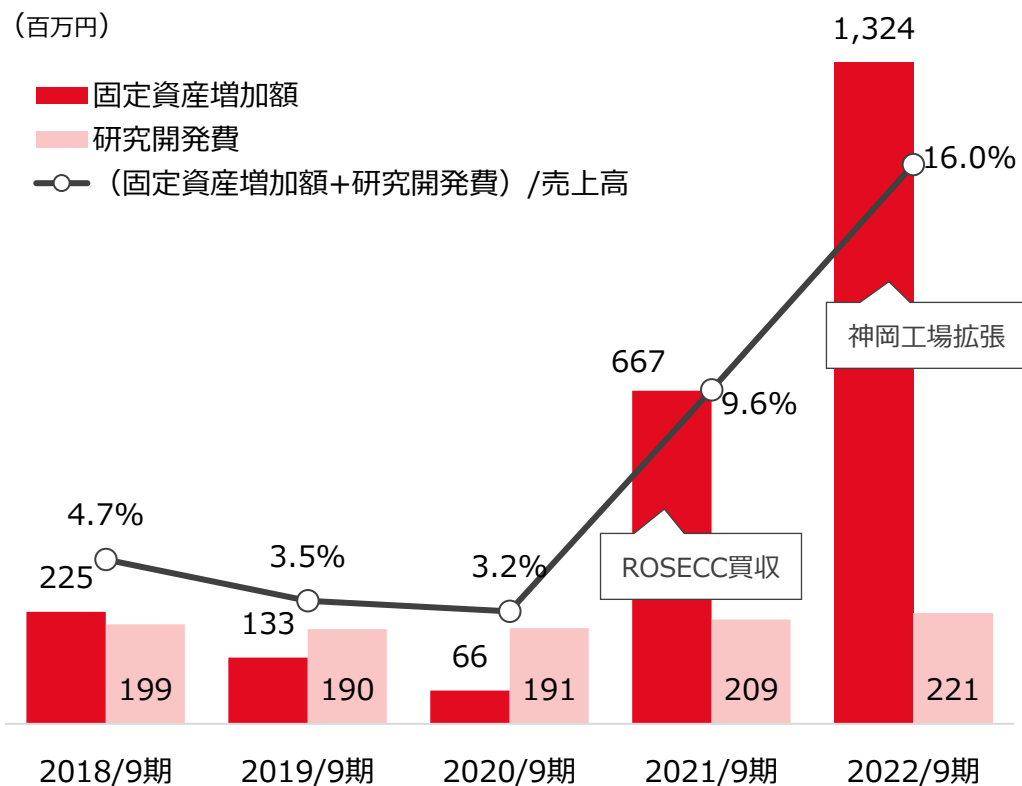
* FCF=営業CF+投資CF で算出



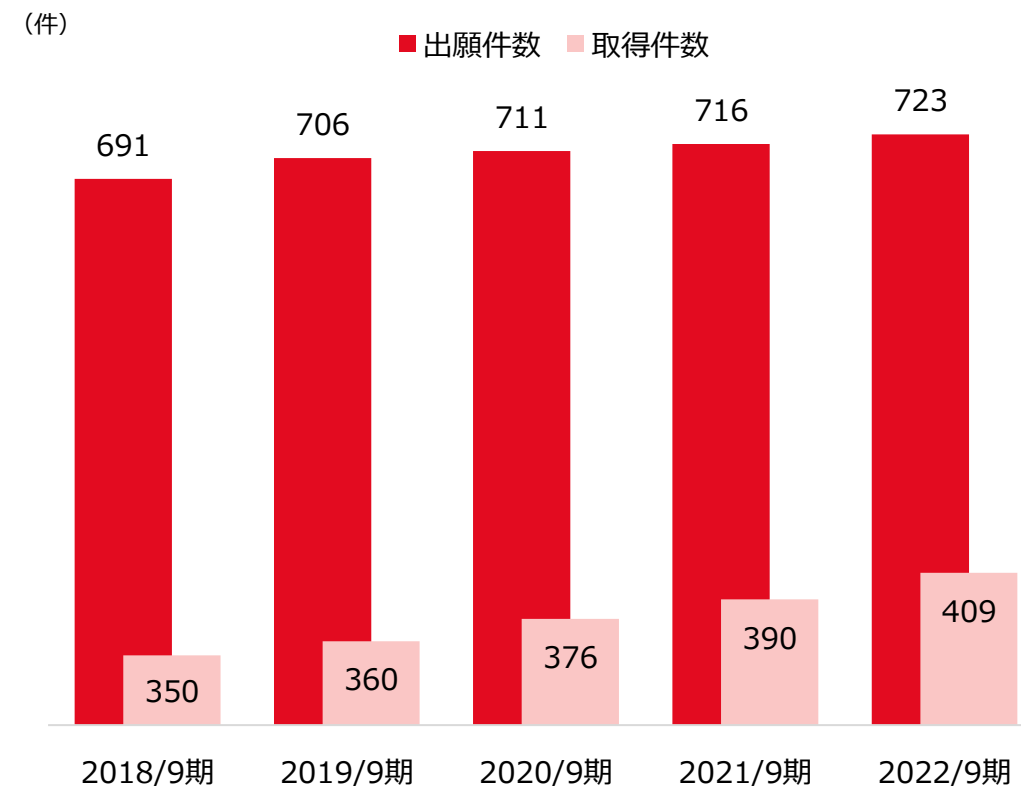
投資、特許件数の推移

- モノ作りの根幹を成す生産能力と先端技術の育成は最大の経営課題。直近は対売上比2桁超で攻めの姿勢で対応
- 特許取得件数は引き続き20件前後の増加ペース。その先行指標でもある出願件数も順調に積み重ねており、独自技術の強化・確保・知的財産獲得への意欲は継続

投資 & 研究開発費の推移



特許取得件数 (累計) の推移





2023/9期通期決算見通し

2023年9月期 決算見通し

- 2023/9期は増収増益を想定。かねて目標としていた売上高100億円に到達の見通し
- 当期は前期より回復の兆しが見えてきたインダストリーが業績を牽引。前期伸び悩んだコンシューマやニュー・インダストリーも種々のテコ入れ策により回復を想定。一方、前期に業績を支えたプロフェッショナルは急伸の反動発生を見込む

(百万円) (2021/9期より連結決算)	2021/9期	2022/9期	2023/9期見通し		
			見通し	前期比差異	増減率
売上高	9,169	9,681	10,300	+618	+6.4%
プロフェッショナル	6,942	7,466	7,315	▲151	▲2.0%
コンシューマ	786	741	910	+168	+22.7%
インダストリー	923	978	1,400	+421	+43.1%
ニュー・インダストリー	517	495	675	+179	+36.1%
営業利益	280	228	350	+121	+53.2%
プロフェッショナル	259	186	149	▲37	▲20.0%
コンシューマ	▲16	▲12	27	+39	黒字転換
インダストリー	49	80	180	+99	+124.1%
ニュー・インダストリー	▲12	▲25	▲7	+18	赤字縮小
経常利益	273	194	305	+110	+56.6%
親会社株主帰属当期純利益	189	143	200	+56	+39.4%
営業利益率	3.1%	2.4%	3.4%	+1.0pp	
経常利益率	3.0%	2.0%	3.0%	+0.9pp	

プロフェッショナル

- 当社基幹事業ながら、値上げ前駆込需要の反動を想定

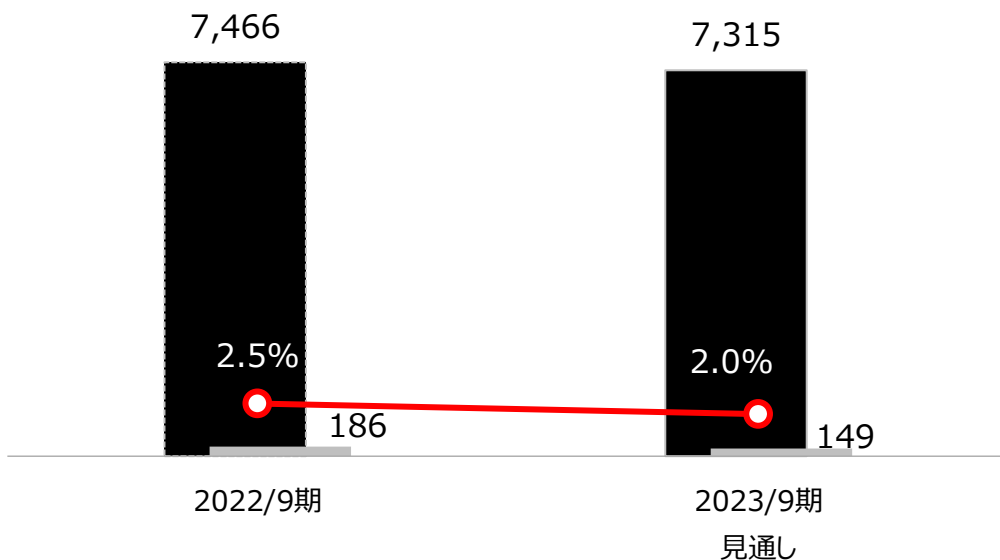
インテリア

カタログ製作費減少も、駆込需要の反動は不可避
新クラウドシステム「Goolip」の推進と新規開拓加速

畳

トップシェアの地位強化に向け、新販売方式の更なる
推進

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



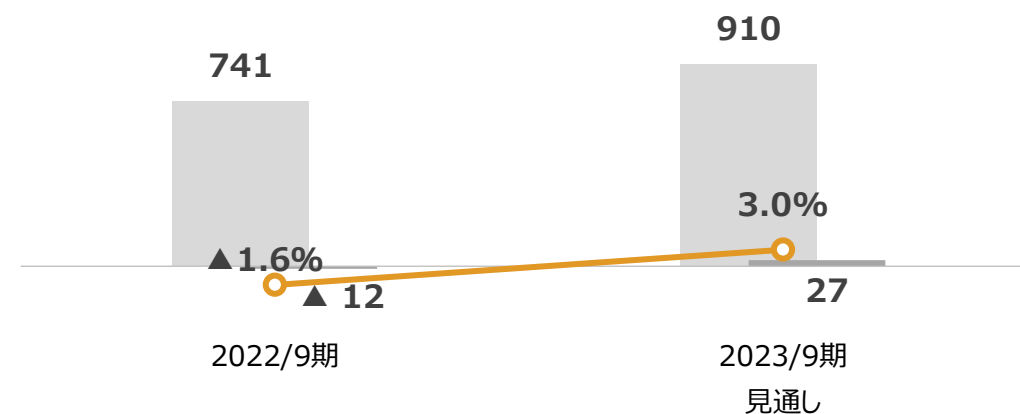
コンシューマ

- 黒字転換を図りつつ、全社売上高の10%を目指す

コンシューマ

防災関連商品等の積極販売
自社ECサイト等によるB2C事業の積極推進

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



インダストリー

- 当社成長事業として、拡大基調の回復定着を目指す

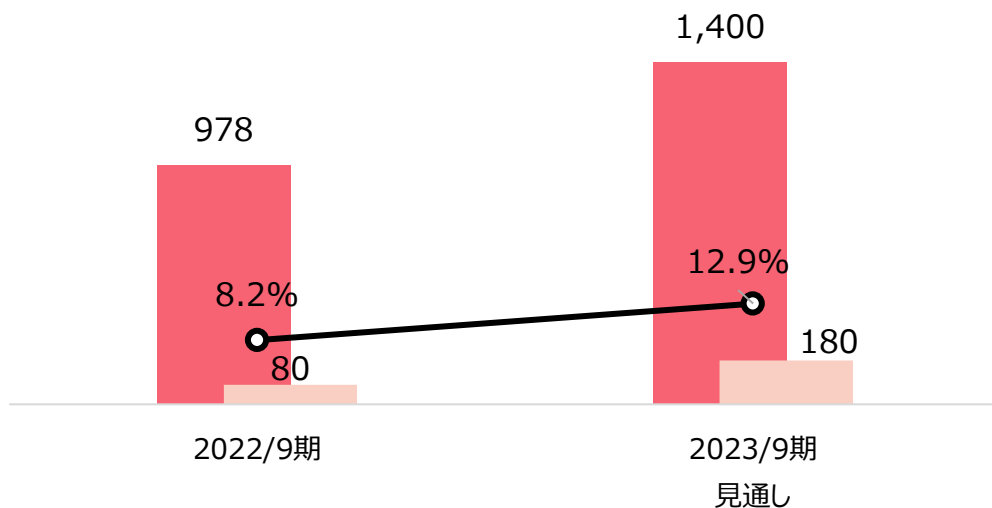
産業機器

既存大手取引先からの引き合い対応強化
新組立工場の実力を活用した新規顧客の獲得

食品機器

チェーン展開を行う大手外食産業からの引き合い対応強化

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率

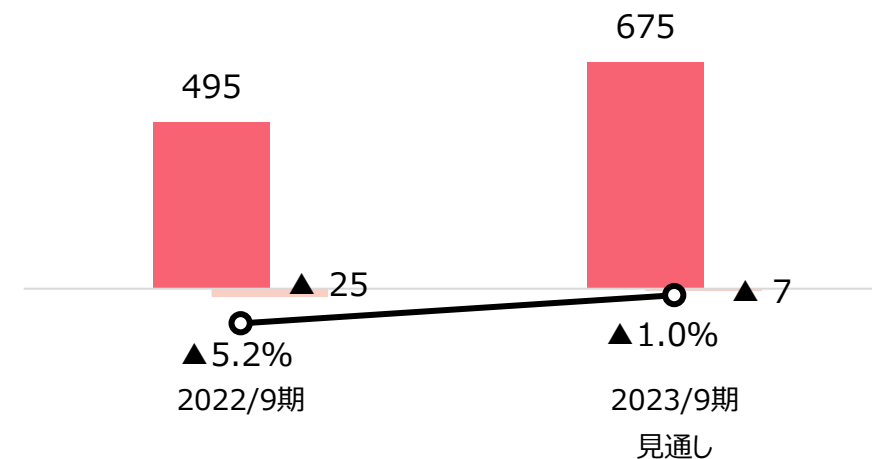


ニュー・インダストリー

- ロボット技術と当社コア技術とのシナジー発揮が急務

- ・ 開発人員・マネジメントの交流加速
- ・ 共同受注対応促進

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率

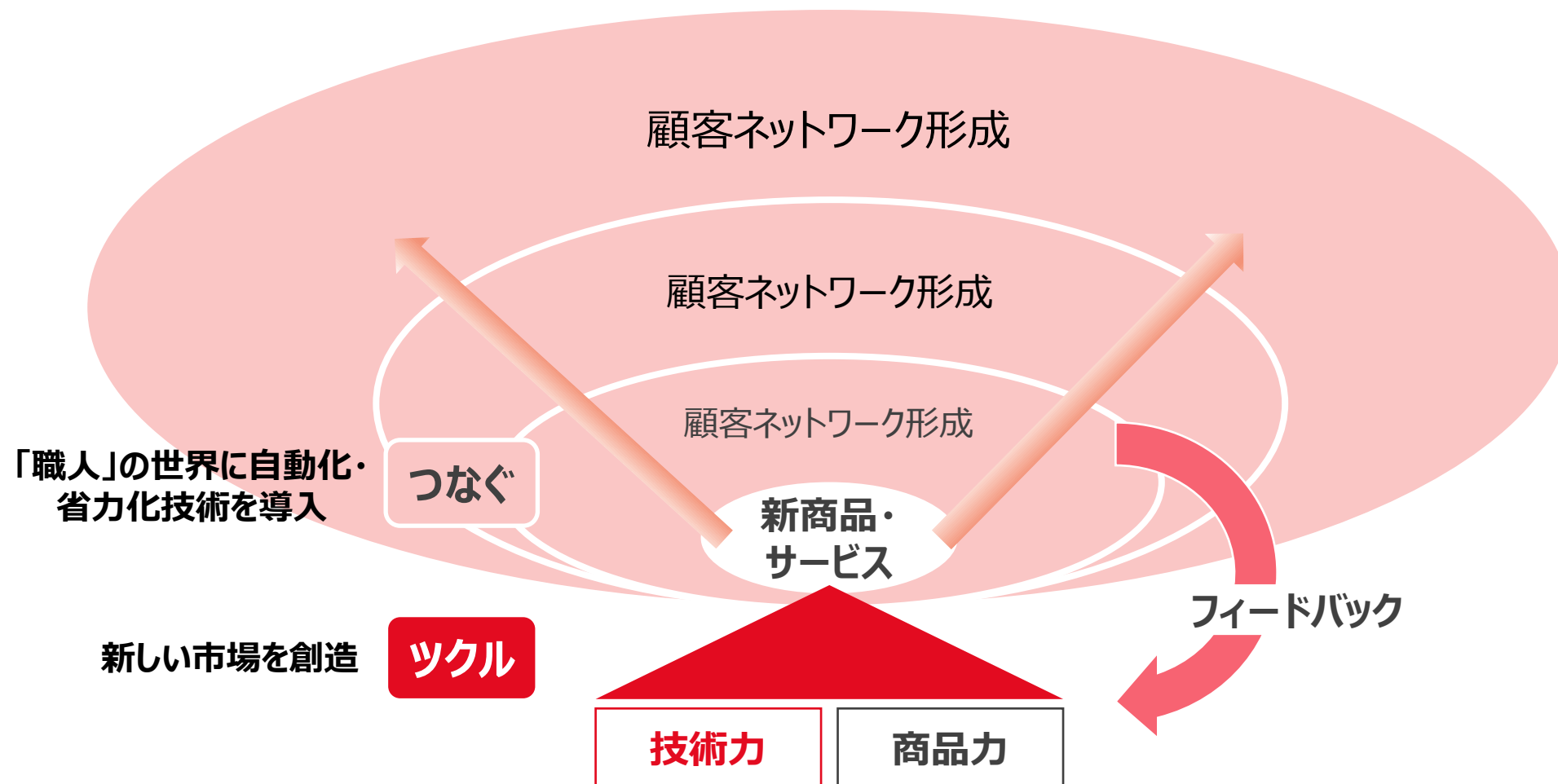




中期ビジョン策定に向けて

事業の方向性にかかる基本コンセプト

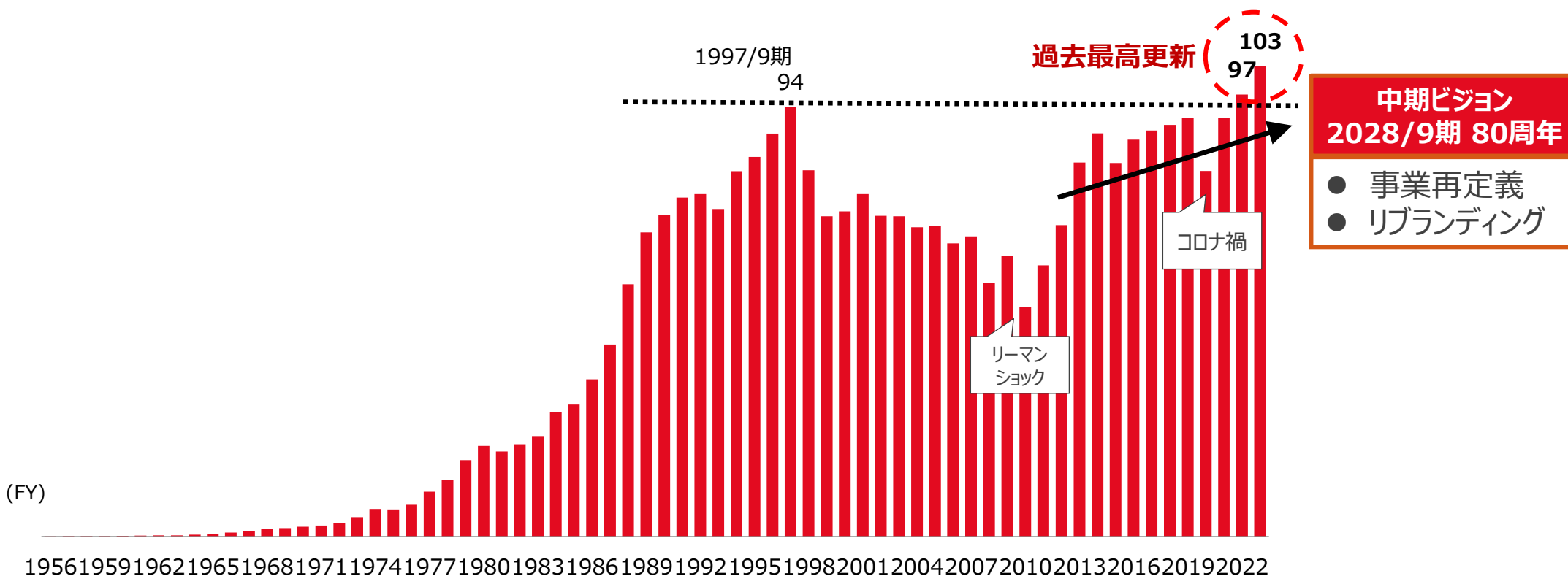
- 製造業（2次産業）を基本にサービス業（3次産業）的な要素を加えた「2.4次産業」化を追求
- 技術力・商品力をベースに新商品、新サービス、新規顧客を生み出し続ける「つなぐ。ツクル。」の好循環による事業拡大を形成



中期ビジョン策定に向けて

- 既に売上高は25年ぶりに過去最高を更新。事業構造の再構築を経て、当社は新しいステージに突入と位置づけ
- 創業80周年となる2028/9期に向けて中期ビジョンの策定に着手。当社事業を再定義するとともに、リブランディングを推進
- 中期ビジョンの3つの基本テーマ「当社のCIの再構築」、「『2.4次産業』への展開」、「当社事業のSDGsへの貢献」

売上高の長期推移 (億円)





THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

トピックス

新組立棟・生産本部棟

新工場概要

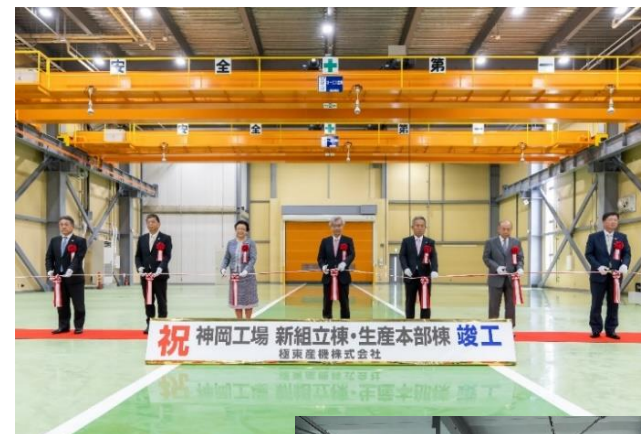
- ・延床面積：5,735㎡（全体面積は約60%拡張）
- ・新規取得土地面積：6,645㎡（同 約40%拡張）
- ・外寸：幅24m、長さ78.5m、高さ17mの大型工場
- ・主な生産品
 - ①リチウムイオン電池製造装置等の先端産業向けオーダーメイド産業機器
 - ②自動壁紙糊付機等の内装施工省力機器
- ・投資金額：18億円



【新工場外観（左：生産本部棟、右：新組立棟）】

竣工式・内見会（2022.4.27）

多くの来賓を招き竣工式ならびに内見会を開催。



◀新組立棟
1Fにてテープ
カット



▶内見会（新
組立棟2Fに
て自動壁紙糊
付機見学）

メインバンクが当社向け「SDGs推進シンジケーション」を組成

(2021年10月29日リリース)

対象案件

案件1

- 二次電池製造装置の製造・販売による省エネ・蓄エネへの貢献と、太陽光発電事業を通じた再生可能エネルギーの拡大
- インダストリーセグメント、コンシューマセグメント



SDGs 目標

目標9
産業と技術革新の基盤をつくろう



目標7
エネルギーをみんなにそしてクリーンに



案件2

- 地域の畳店の事業継承（写真は畳店向けの勉強会）、特殊機能畳の提供を通じた安全で快適な空間づくりへの貢献
- プロフェッショナルセグメント、コンシューマセグメント



目標9
産業と技術革新の基盤をつくろう



目標13
気候変動に具体的な対策を



「SDGs推進シンジケーション」とはシンジケーション実行時に、三井住友銀行及び日本総合研究所が、企業のSDGsに関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道筋（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等を提供するローン

2018年1月

地域未来牽引企業

経済産業省

地域経済牽引事業の担い手の候補となる地域の中核企業



地域未来牽引企業



2020年3月

ひょうごオンリーワン企業

兵庫県

優れた技術や製品を有し、国内外で高い評価やシェアを得ている企業



2021年2月

ひょうごNo.1
ものづくり大賞

兵庫県

兵庫県内のものづくり企業の優れた技術や製品・部材に対して顕彰
受賞製品は「ジムボード ネオ」
(フィットネスクラブでのウェイトトレーニング用器具の落下や振動による騒音等を低減する床材)



2022年5月

兵庫県功労者表彰

兵庫県

県政の伸展、公共の福祉増進の功労者として、当社社長頃安雅樹が産業振興功労部門表彰



2022年11月

龍野商工会議所
会頭 就任

兵庫県

地元有力企業として、当社社長頃安雅樹が龍野商工会議所会頭に就任





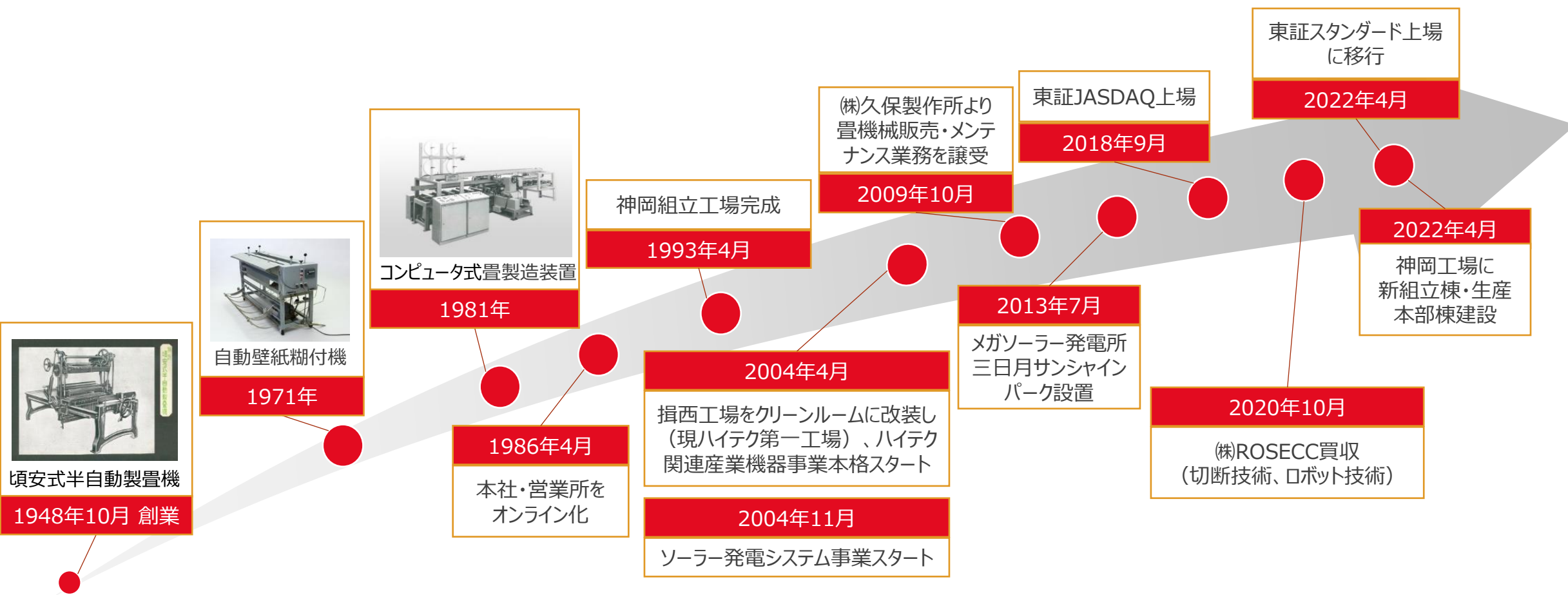
THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

Appendix

「極東産機」とは

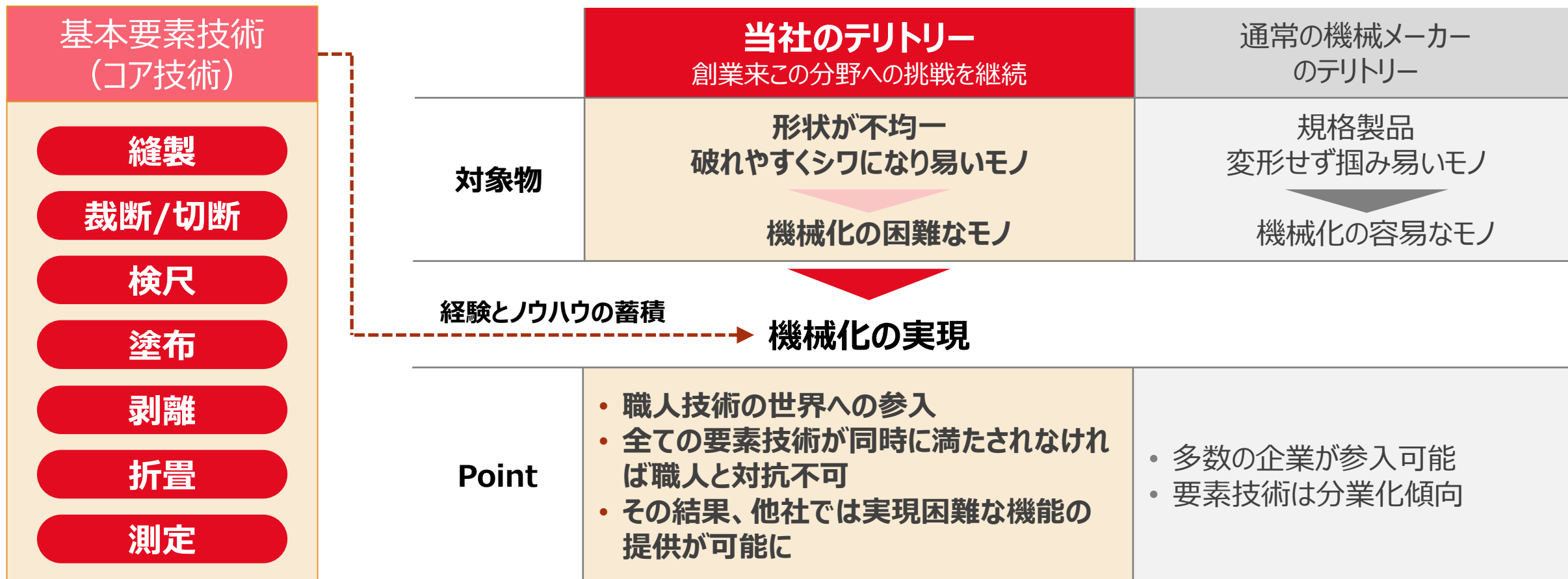
「職人」の世界に自動化・省力化技術を導入し（＝つなぐ。）、
新しい市場を創造する（＝ツクル。）問題解決型マシナリー企業

- 日本初のコンピュータ式置製造装置、自動壁紙糊付機を開発し、職人の世界にいち早くコンピュータを導入
- 現在はハイテク分野、メガソーラー発電などにも事業を展開

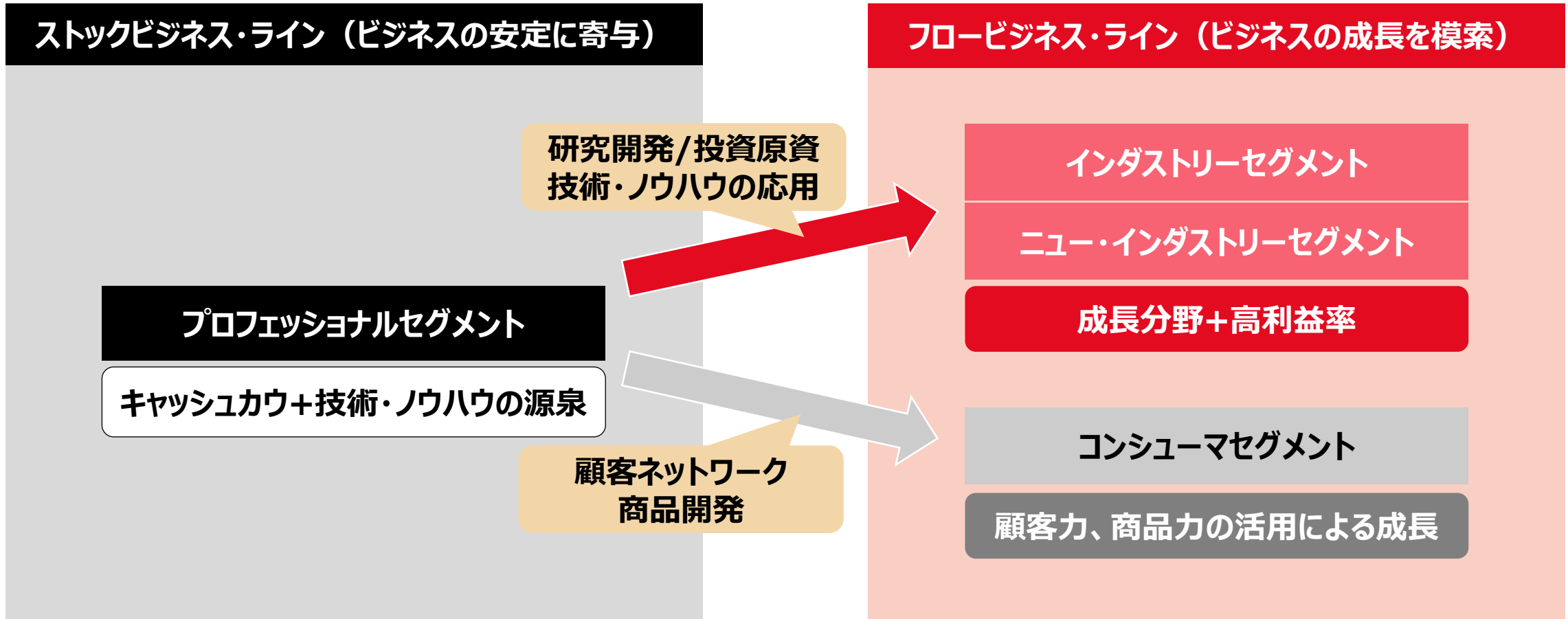


競争力の源泉 職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 7つの基本要素技術（コア技術）を有する稀有な会社
- 機械化が困難な職人の世界に当社は挑戦

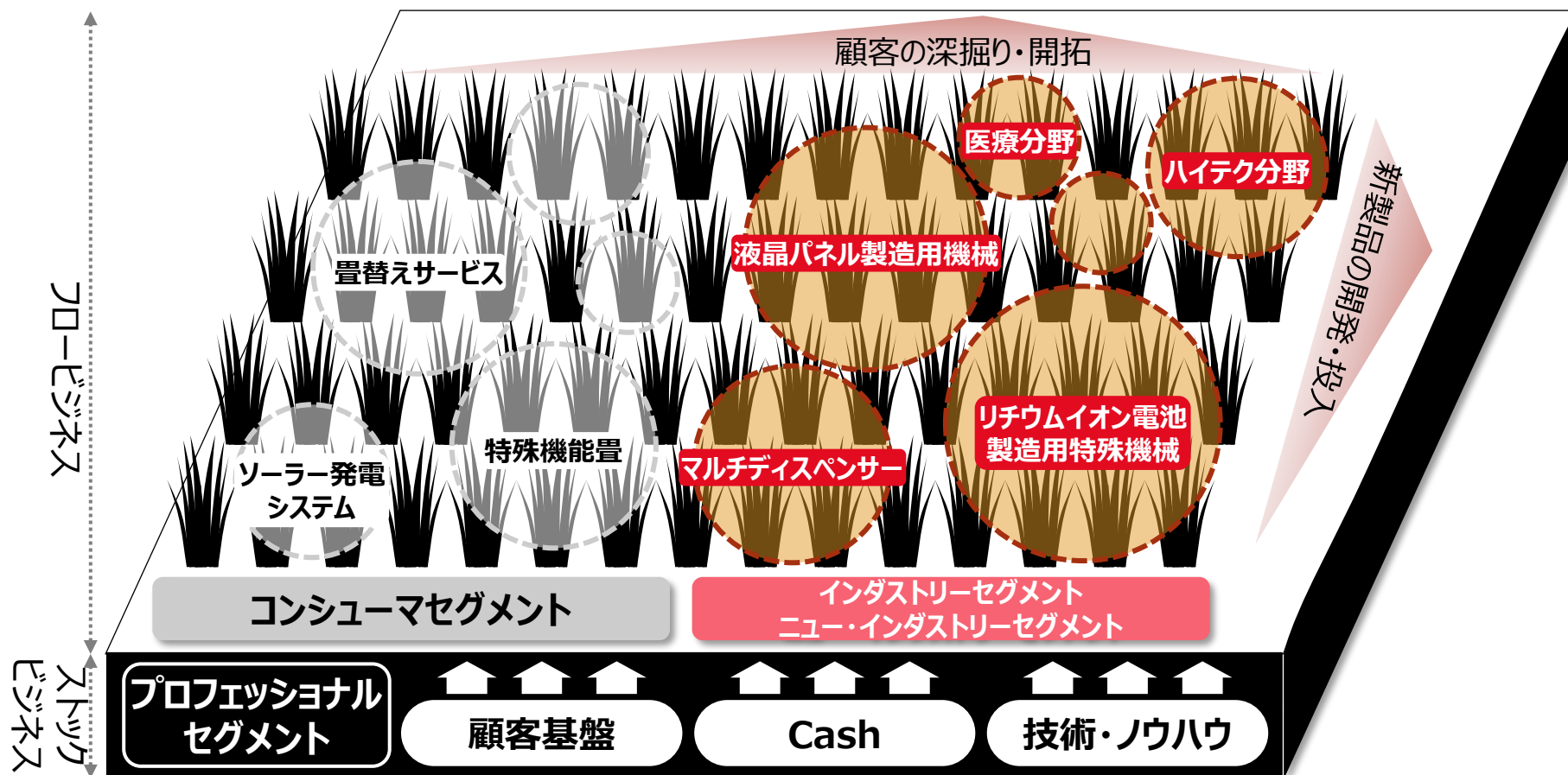


- プロフェッショナルからコンシューマ、インダストリー、ニュー・インダストリーへ
- キャッシュ・技術・ネットワークを供給し、会社全体の成長を図っていく仕組み



(参考)ストックビジネス(=安定性)とフロービジネス(=成長性)の2本柱

- プロフェッショナルは「畑」、
コンシューマ、インダストリー、ニュー・インダストリーは「果実」である !!



半導体・電子機器

● 液晶検査装置

液晶パネルを構成するカラーフィルタ、アレイ、セルの検査を行う装置



自動車

● 車載二次電池用スリッター

原反の電極またはセパレータ材料を製品幅に連続して裁断し巻き取る装置



建築

● ロックウール縫製装置

断熱材のロックウールを金属糸を使用して8本針で金網に連続縫製する装置



繊維・アパレル

● コンテナバッグ縫製設備

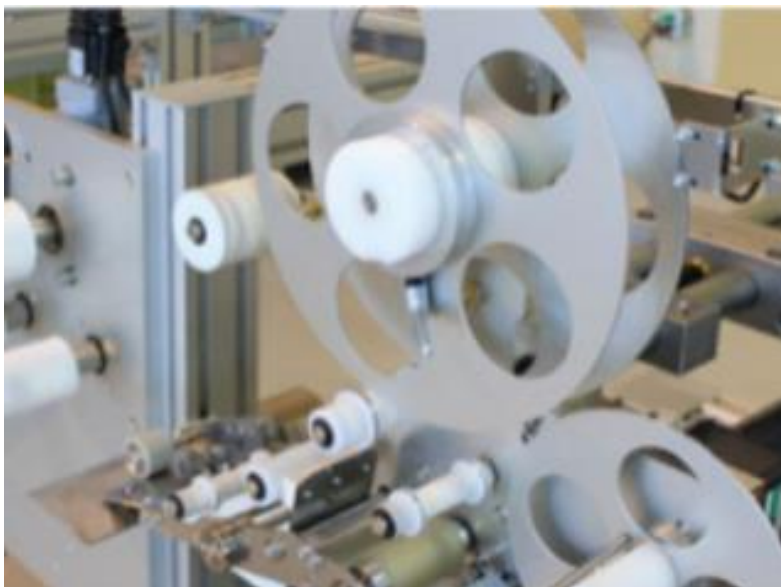
羊毛原料を搬送するときに使用する四角いコンテナ状バッグを縫製する設備



医療

● IDタグ貼付装置

医療用品に、管理用のRFIDラベル(ICタグ)を連続して貼り付ける装置



食品機器

● マルチ DISPENSER

味噌、濃縮ダシ、濃縮スープ等を希釈して定量供給する装置



		2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月
売上高	(千円)	9,014,643	9,159,561	8,006,367	9,169,425	9,681,967
経常利益	(千円)	381,170	212,791	81,586	273,578	194,796
当期純利益	(千円)	303,342	144,681	67,685	189,534	143,422
資本金	(千円)	602,050	631,112	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	5,235,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	2,573,862	2,696,681	2,673,643	2,780,993	2,841,288
総資産額	(千円)	7,962,550	8,023,664	7,591,862	8,625,240	10,430,851
1株当たり純資産額	(円)	491.66	500.22	495.95	515.86	527.05
1株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
1株当たり当期純利益金額	(円)	71.40	26.90	12.56	35.16	26.60
自己資本比率	(%)	32.3	33.6	35.2	32.2	27.2
自己資本利益率	(%)	13.5	5.5	2.5	6.9	5.1
配当性向	(%)	14.0	37.2	79.6	28.4	37.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	341,141	▲64,289	124,059	460,771	263,057
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲233,484	▲102,383	▲32,338	▲794,812	▲1,088,497
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	102,907	2,356	▲70,960	442,782	757,699
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,189,908	1,025,591	1,046,348	1,155,091	1,087,351
従業員数	(人)	260	275	281	292	295
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(25)	(24)	(23)	(25)	(29)

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@kyokuto-sanki.co.jp